



## 平成 28 年熊本地震 地元消防団の取組

熊本県西原村消防団長 馬場 秀昭



### 1 地震発生

平成 28 年 4 月 16 日午前 1 時 25 分、「ドーン」という突き上げるような衝撃のあと、激しい横揺れに見舞われました。「震度 7 の地震発生」を告げる防災無線を聞き、「とんでもないことないことになった」という思いの中、無我夢中で役場へと向かいました。停電により道中は真っ暗闇。ヘッドライトの灯りのみを頼りに車を走らせましたが、道路はひび割れ、波打ち、電柱は倒れ、役場に到着するまでにいつもの何倍も時間がかかったと感じたことを覚えています。役場庁舎内は棚や机、書類が散乱していたため人が入る隙間もなかったことから、応急的に役場駐車場に机とホワイトボードを設置して対策本部とし、そこにはすぐに多数の倒壊家屋、生き埋めの情報などが寄せられてきました。消防署、警察からも駆けつけ、その場所はさながら戦場のよ



大切畑地区の被災状況

うでした。

西原村では 5 名の尊い命が奪われたのははじめ、多数の負傷者を出し、家屋・建物の被害は、全壊が 505 棟、半壊以上となると全体の 45% になる 1281 棟にもなる未曾有の大災害となりました。

### 2 消防団の動き

「布田川断層」を抱える私たちの村では 2 年に 1 回、消防団と村の主催で大地震を想定した「発災対応型防災訓練」を実施しています。訓練は村内全地域を対象とし、各地域の消防団、自主防災組織の主導により、住民の安否確認・避難誘導を行い、役場に設置された災害対策本部に被害状況・人員報告を行うというものです。昨年 8 月に実施した訓練では、併せてチェーンソーなどの特殊資機材を使った倒壊家屋からの救出訓練、孤立集落発生を想定した対策訓練も行いました。

今回の地震は想定を超える「震度 7」という大きなもので、被害も予想を超える甚大なものでした。そのような中、各地区の消防団員から対策本部に対し、正確・迅速に情報が伝えられ、明け方には全住民の安否確認が完了しました。また、家屋の倒壊により、多数の方が生き埋めになっていましたが、消防団員によって多くの人命を救出することができました。これは、各家庭の家族構成から、どの部屋で寝ているということまで把握している消防団だからこそ成し得たことです。



瓦礫の撤去

このような大地震の中で被害を最小限にとどめることができたのは、日ごろの訓練と地域に根ざした消防団活動の賜物ではないかと思っています。

救出活動後の消防団員の活動は、瓦礫撤去や道路の応急的な復旧作業、避難所運営など、多岐に亘りました。震災から数日が経つと、避難により不在になった家屋に空き巣が入るなど、多数の不審者情報が寄せられるようになったため、夜間は積載車で警戒活動も行いました。消防団員は自分たちも被災者であるにもかかわらず、昼夜を問わずに活動を続け、出動人員は述べ4,349人にものぼりました。

### 3 今後の課題

消防施設の被害も多数発生しました。防火水槽の損壊箇所が多数あり、火災発生時の水利不足が心配されます。また、消防団詰所、車庫も損壊し、使用できない箇所が多数存在します。今でも小型ポンプ積載車は雨ざらしの状態で、今後の消防団活動に支障をきたす恐れもあることから、早急な復旧が必要ですが、村の予算のみならず、地元住民の負担が発生

します。自身の再建で精一杯の住民にこれ以上の負担を強いるのは困難であることから、今後の見通しは立っていません。

### 4 最後に

今回の震災に際して、「自分たちの村は自分たちで守る」という強い意志のもと活動する団員の姿に、団長として改めて誇りに思うことができました。

テレビや新聞等で西原村消防団の活動を紹介していただき、感銘を受けていただいたと言う全国の消防団の皆様から多数のご支援、温かい励ましのお言葉をいただきました。全国の同じ志を持った仲間たちからの激励は、疲れきった団員の心の支えとなり、活動する上での糧となりました。この場をお借りしまして、心より御礼申し上げます。

これから復旧、復興へと進む道は決して楽なものではありませんが、我々西原村消防団は、住民とともに一致団結して前を向いて進んでまいります。今後も温かく見守っていただければ幸いです。

